

# 第14回 つなげよう資源の輪 広げよう地域の和

## えんとつフェスティバル2016



**10/8 土**  
午前10時～午後3時  
雨天の場合、9日(日)に順延。  
9日も雨天の場合は中止

- フリーマーケット(約40店舗)
- 清掃工場ミニツアー(見学会)
- 参加型イベント(クイズラリー等)
- 模擬店(焼きそば、わたあめ、飲み物等)
- ステージ(和太鼓、よさこいなど)
- 参加団体等のブース その他

※内容は都合により変更することがあります。  
主管: えんとつフェスティバル実行委員会  
主催: 連絡協議会、小平・村山・大和衛生組合  
後援: 小平市、東大和市、武蔵村山市



**フードドライブの実施について**  
フードドライブとは、家庭で余っている食べ物を学校や職場等に持ち寄り、それらをまとめてフードバンク等に寄付することをいいます。今回、会場(3市情報コーナー)で、未利用食品の回収を実施いたします。回収できる食品の条件等は以下のとおりです。

- 〈回収できる食品の条件〉
- ・未開封で包装や外装が破損していないもの、賞味期限が明記されており、1ヶ月以上先のもの。生鮮食品及び瓶詰め食品は不可。
- 〈回収品目等〉
- ・お米(白米)、パスタ、食用油、しょうゆ、みそ、砂糖などの調味料、インスタント・レトルト食品、缶詰(くだものなど)、コーヒー、お茶など

**会場: 小平・村山・大和衛生組合**  
(小平市中島町2番1号)  
東大和市駅または玉川上水駅徒歩10分  
※駐車場はありませんので、来場は徒歩、自転車または公共交通機関をご利用ください  
※ペット類の入場はできません

発行 小平・村山・大和衛生組合 平成28年9月発行  
〒187-0033東京都小平市中島町2番1号 TEL: 042-341-4345 FAX: 042-343-5374 HP <http://www.kmy-eiseikumiai.jp/>  
(小平・村山・大和衛生組合は、小平市、東大和市、武蔵村山市の3市の市民生活から出るごみを処理する清掃工場を管理運営する一部事務組合(特別地方公共団体)です。)

小平・村山・大和衛生組合

# えんとつ

No. 41

小平・村山・大和衛生組合は、3市のごみを処理している清掃工場です。



## 10/8 土 えんとつフェスティバル 2016開催

### 《No.41 主な内容》

- ・3市共同資源化事業を進めています
- ・衛生組合議会の動き
- ・各種測定結果について



# 小平市、東大和市、武蔵村山市及び小平・村山・大和衛生組合では、3市共同資源物処理施設を進めています

## 3市共同資源物処理施設生活環境影響調査書がまとまりました。

小平市、東大和市及び武蔵村山市の3市と小平・村山・大和衛生組合の4団体では、東大和市暫定リサイクル施設用地（東大和市桜が丘2丁目122番地の2）に3市共同資源物処理施設を建設する事業を進めていますが、このたび、生活環境影響調査書がまとまりましたので報告します。この生活環境影響調査は、全ての廃棄物処理施設について実施が義務づけられているもので、施設的设计者等は、計画段階で、その施設が周辺地域の生活環境に及ぼす影響をあらかじめ調査し、その結果に基づき、地域ごとの生活環境に配慮したきめ細かな対策を検討したうえで施設の計画を作り上げていくこととなります。調査書の概要については、以下のとおりです。

**1 施設の概要**  
施設の概要は、以下のとおりです。

設置者及び設置場所	小平・村山・大和衛生組合 管理者 小林 正則 設置場所：東大和市桜が丘2丁目122番地の2
種類等	マテリアルリサイクル推進施設 処理する廃棄物（資源）の種類：その他プラスチック製容器包装（以下「容リプラ」という）とペットボトル
能力	容リプラ17t/日、ペットボトル6t/日の合計23t/日
処理方式	選別、圧縮及び梱包
構造及び設備等	敷地面積4,311.64㎡、建築面積約2,250㎡、延床面積約5,260㎡、地上3階構造（地下ピットあり）

**2 公害防止対策**  
公害防止対策については、以下のとおりです。

項目	内容
①操業に伴う騒音・振動・光害対策	資源ごみの受入や選別、選別品の圧縮・梱包、搬出作業は全て建屋内で行い、建屋内の気密性を保ち、外部への影響を防止するよう計画します。これによりラインの稼働による騒音を防止し、作業車両の騒音やライト光の拡散も防止します。また、振動を発生させる恐れのある圧縮機は、堅牢な基礎に設置し振動の伝播を抑えます。
②臭気及び揮発性有機化合物（VOC）対策	建屋内で発生する臭気及び揮発性有機化合物（VOC）は、建屋内の気密性を保つとともに、建屋内の空気を吸引することで、建屋内の気圧を外部よりも低くし、臭気や揮発性有機化合物（VOC）の外部への漏洩や飛散を防止します。選別後の容リプラ等の圧縮時に発生する微量の揮発性有機化合物（VOC）への対策については、活性炭及び光触媒を効果的に組み合わせる等、吸着や酸化分解等により、周辺環境に影響のない濃度に分解・除去し、排気します。
③搬入路対策	搬入路は、建設予定地に接する市道を利用しますが、幹線道路である桜街道からの搬入車両の進入は北側からに集中することのないよう、分散化を図ります。また、敷地内の計量機の位置を建物の奥側とし、敷地内に十分な待機スペースを確保することにより、収集車両の集中による公道待機の発生を防止し、一般車両の通行を阻害しないようにします。

### 3 生活環境影響調査項目の選定

生活環境影響調査項目については、事業の内容及び事業用地周辺の地域特性から、「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」（平成18年9月、環境省 大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部）に基づき、破碎・選別施設に関する生活環境影響要因と生活環境影響調査項目との関連を整理した結果より、以下の5項目を選定しました。

選定項目	理由
①大気質（施設の稼働に伴う揮発性有機化合物（VOC））	選別及び圧縮梱包施設の稼働に伴い揮発性有機化合物（VOC）が発生する可能性が考えられるため
②大気質（廃棄物運搬車両の走行（二酸化窒素（NO <sub>x</sub> ）及び浮遊粒子状物質（SPM））	廃棄物運搬車両の走行に伴う二酸化窒素（NO <sub>x</sub> ）及び浮遊粒子状物質（SPM）の発生が考えられるため
③騒音・振動（施設の稼働、廃棄物運搬車両の走行）	選別及び圧縮梱包施設の稼働及び廃棄物運搬車両の走行に伴う騒音・振動の発生が考えられるため
④悪臭（施設からの悪臭の漏洩）	選別及び圧縮梱包施設の稼働に伴う悪臭の発生が考えられるため
⑤交通量（廃棄物運搬車両の走行）	廃棄物運搬車両の走行に伴い交通量が増加することから、廃棄物運搬車両の走行に伴う影響割合を把握する目的のため

※選定しなかった項目…大気質（施設の稼働に伴う粉じん）及び水質（施設排水の排出）

### 4 生活環境影響調査の結果

生活環境影響調査の結果は、以下のとおりです。

- (1) 大気質
- ① 施設稼働時の揮発性有機化合物（VOC）  
揮発性有機化合物（VOC）については、容リプラ及びペットボトルを資源化処理する過程で微量の発生が見込まれています。このため、施設では、室内で発生した揮発性有機化合物（VOC）を捕集し、活性炭吸着方式等の除去設備で周辺環境に影響のない濃度に除去し、排気することとしています。
- 今回の調査では、事前に設定した環境保全目標と揮発性有機化合物（VOC）の予測結果との比較により影響の分析を行いました。予測は、文献データをもとに、揮発性有機化合物（VOC）の最大値に対し、活性炭脱臭装置の性能を80％除去が可能であるとして、室外に排出される空気（除去後の濃度）中の濃度について算出しました。揮発性有機化合物（VOC）については、その結果、現況値（最大値）及び予測値については、全て事前に設定した環境保全目標を満足していることから、周辺地域への影響は軽微であると考えられます。

物質名	単位：μg/m <sup>3</sup>	
	※1 環境保全目標	現況値（最大値）
トリクロロエチレン	200（1年平均値）	0.5
テトラクロロエチレン	200（1年平均値）	0.38
ベンゼン	3（1年平均値）	2.4
ジクロロメタン	150（1年平均値）	0.8
トルエン	260	8.8
キシレン	870	<5
エチルベンゼン	3,800	<5
スチレン	220	<4.4
テトラデカン	330	<5
パラジクロロベンゼン	240	<4.8
ホルムアルデヒド	100	2.2
アセトアルデヒド	48	6
クロロピリロス	1	<0.02
ダイアジノン	0.29	<0.02
フェノプロカルブ	33	<0.02
フタル酸ジ-n-ブチル	220	<2
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	120	<2
総揮発性有機化合物量（T-VOC）	400（暫定目標値）	126

※1 環境保全目標…周辺環境において、環境基準の定められている4物質と室内濃度指針で定められている13物質及び室内空気質暫定目標値

※2 環境基準…環境基本法に基づくベンゼン等による大気汚染に係る環境基準

※3 室内濃度指針…国内において設定されている対象物質と室内濃度指針値

※4 大気現況調査…平成27年度に計画地において測定した調査

- ② 廃棄物運搬車両の走行による沿道大気
- 廃棄物運搬車両の走行による沿道大気については、大気調査地点である道路端を予測地点・範囲とし、二酸化窒素（NO<sub>x</sub>）については、「二酸化窒素に係る環境基準について」に準じた方法、浮遊粒子状物質（SPM）については、「大気汚染に係る環境基準について」に準じた方法で予測いたしました。また、大気現況調査より、風速を四季平均の風速1.7m、大気安定度（※1）を施設の稼働時と同様の並不安定の（B）、弱不安定の（C）及び中立の（D）の3ケースとして予測条件を設定しました。
- 今回の調査結果では、事前に設定した環境保全目標と予測結果との比較により影響の分析を行い、現況値及び最大着地濃度（予測値）の両方とも、事前に設定した環境保全目標を満足していることから、周辺地域への影響は軽微であると考えられます。

物質名	環境保全目標	※2最大着地濃度（予測値）	現況値（期平均値）
二酸化窒素（NO <sub>x</sub> ）	0.04ppm	0.026ppm	0.018ppm
浮遊粒子状物質（SPM）	0.2 mg/m <sup>3</sup>	0.022mg/m <sup>3</sup>	0.015 mg/m <sup>3</sup>

※1 大気安定度は、大気の乱れの状態をA～Fの6階級で表したものであり、Aの状態では大気は最も不安定であり、Fは、大気最も安定している状態である。また、これらの中間の状態をDと表しており、排ガスの拡散は、この大気安定度に強い影響を受ける。

※2 排出された物質が地上に到着するときの最大濃度（予測値）

- (2) 騒音
- 施設の周辺は、公園、特別養護老人ホーム、住宅地が隣接していることから、施設の敷地境界線及び現況調査を行った近隣公園、特別養護老人ホーム、住宅地を調査対象範囲としました。また、廃棄物運搬車両による騒音については、搬入車両が最も集中する地点として施設西側道路を調査対象地域としました。
- 施設の操業に伴う騒音は、敷地境界線において「騒音規制法」及び「環境確保条例」に基づく工場・指定作業場に係る騒音の規制基準を順守するだけでなく、施設が稼働する時間帯においては、より厳しい環境保全目標を設定しています。
- 今回の調査結果では、①施設の稼働時における現況値については、設定した環境保全目標を満足する結果となっておりますが、予測値については、施設の稼働により相当程度現況値よりも騒音レベルの減少が見込まれていることから、環境保全目標を満足する結果となっております。
- ②の廃棄物運搬車両の現況値及び予測値の両方とも、環境保全目標を満足する結果となっております。

① 施設の稼働時

環境保全目標	予測値（稼働時環境騒音レベルの最大値）	現況値（最大値）
55	52.9（北側敷地境界線）	62（事業用地北側）

② 廃棄物運搬車両

環境保全目標	予測値（稼働時交通レベルの最大値）	現況値（最大値）
65	53.8	61.3

- (3) 振動
- 施設の操業に伴う振動は、敷地境界線において「振動規制法」及び「環境確保条例」に基づく工場・指定作業場に係る振動の規制基準を順守するだけでなく、施設が稼働する時間帯においては、より厳しい環境保全目標を設定しています。
- 今回の調査結果では、①施設の稼働時における現況値及び予測値の両方とも、環境保全目標を満足する結果となっております。また、②の廃棄物運搬車両の現況値及び予測値の両方とも、環境保全目標を満足する結果となっております。

① 施設稼働時

環境保全目標	予測値（稼働時環境振動レベルの最大値）	現況値（最大値）
55	41.9（北側及び西側敷地境界線）	41（事業用地北側及び南側）

② 廃棄物運搬車両

環境保全目標	予測値（稼働時交通振動レベルの最大値）	現況値（最大値）
60	42.7	48

- (4) 悪臭
- 施設の操業に伴う悪臭は、敷地境界線において「悪臭防止法の規定に基づく悪臭の規制基準に関する告示（平成24年3月31日東大和市告示第37号）」により、臭気指数13以下となっております。予測は、定性的予測としましたが、計画施設の構造及び設備により臭気の漏えいが少なく、臭気を含む室内大気は、脱臭処理後、施設外へ排出されることが適格な脱臭が可能と考えられます。環境保全目標である敷地境界での臭気指数10以下は満足できるものと考えられます。

- (5) 交通量
- 施設は、3市から資源物が搬入されるため、廃棄物運搬車両については、各市より東大和市の桜街道、富士見通りを経て施設西側の道路へ流入することを想定して、これらの主要道路を含む近隣道路を対象地域とし、施設の稼働する平日の主要道路における12時間（昼間）の交通量を調査します。また、予測ですが、施設稼働時の平日の昼間（9：00～17：00）とし、3市から搬入される廃棄物運搬車両の一般交通に対する増加割合（混入率）を予測項目とします。具体的には、各市の位置関係から、主に桜街道及び富士見通りが主な搬入ルート、3市の車両が集中する調査地点、廃棄物運搬車両の混入率が高くなることを予測し、現況調査結果に3市が計画する廃棄物運搬車両を施設稼働時間帯内で、各予測道路断面に混入した場合の時間帯別混入後の増加車両台数及び混入率を求めるところで予測します。
- 今回の調査結果では、予測断面ごとの廃棄物運搬車両の搬入車両混入率は、桜街道や富士見通りでは、各市からの搬入車両の混入であることから時間帯ごとの搬入車両台数が一般交通量に対して少なく混入率も低いですが、3市の搬入車両が集中する調査地点（建設予定地西側）では、搬入車両混入率が14.7%（搬入車両台数：24台）となります。この断面は、他の予測断面一般交通量より断面交通量が少ないことから搬入車両の混入率が高くなる傾向があるものと考えられます。

環境保全目標	搬入車混入後	搬入車混入率	現況値
本施設への計画搬入車両台数が加算されても著しい影響を与えない範囲	11:00～12:00（搬入車混入率が最大となる時間帯）	163台 14.7%	139台
	7:00～19:00合計	1,879台 6.8%	1,751台

※3市の搬入車両が集中する調査地点（建設予定地西側）における数値を示す。

### 5. 総合的な評価

- (1) 現状把握、予測、影響の分析結果の整理  
計画施設の稼働が周辺に及ぼす影響は軽微であり、適切な環境保全対策を講じることで生活環境の保全上の目標を達成できるものとして評価します。
- (2) 施設の設置に関する反映事項及びその内容
- ① 施設の稼働に係る大気質（施設稼働時の揮発性有機化合物（VOC））対策  
本予測では、微量の揮発性有機化合物（VOC）については、悪臭の除去と同様の活性炭吸着法で除去できることから、施設的设计にあたっては、集じん器後に活性炭吸着塔を設け悪臭物質と併せて揮発性有機化合物（VOC）の除去を行い施設外への拡散を防止します。
- ② 施設の稼働に係る騒音対策  
予測は、建築仕様に対し特別な防音対策を行わない条件で行っていることから、施設の仕様については、騒音発生機器は各居室に収めるほか、機器を設置する居室に関しては、吸音材等を施工する等防音対策を行います。
- ③ 施設の稼働に係る振動対策  
予測は、建築仕様に対し特別な振動対策を行わない条件で行っていることから、施設の仕様について、振動を発生する機器を設置する箇所は、独立基礎等により施設基礎部に振動の伝播がしづらい構造とします。
- ④ 施設の稼働に係る悪臭対策  
臭気捕集と併せて揮発性有機化合物（VOC）対策も行うため、脱臭設備は、揮発性有機化合物（VOC）も捕集可能な活性炭吸着法等によるものを設置します。また、臭気の漏えいを防止するため、プラントホーム出入口扉には、エアーカーテンを設置します。
- (3) 維持管理に関する反映事項及びその内容
- ① 廃棄物運搬車両に係る大気質、騒音、振動及び交通量対策  
特定の曜日に搬入車両が集中することを避けるなど、計画的な搬入を行うものとするほか、搬入車両に対しては、法定速度の厳守、空ぶかしの防止等を励行します。
- ② 施設の稼働に係る悪臭対策  
臭気の漏えいを防止するため、必要時以外には開口部を開放しないこととします。

## 3市共同資源物処理施設の建設に着手します

4団体では、本年3月に策定した3市共同資源物処理施設整備実施計画に基づき、施設の建設に着手します。建設に係る具体的なスケジュールは、以下のとおりです。

### ●今後のスケジュール（予定）

時期	内容
本年8月～10月上旬	3市共同資源物処理施設整備発注仕様書作成
10月上旬	施設起工
10月下旬	入札・仮契約
11月下旬	本契約
11月下旬～来年6月下旬	土木建築に係る実施設計



### 小平・村山・大和衛生組合議会の動き

組合議会の定例会は年に2回（2月、11月）開催され、臨時会は必要に応じて開催されます。最近では、4月に臨時会が開催されました。

○組合助役の選任  
4月臨時会において、組合助役に教山裕一郎氏（小平市副市長）が選任同意されました。

平成28年4月臨時会 平成28年4月15日（金）開催

議案番号	内 容	結果
議案第7号	小平・村山・大和衛生組合助役の選任につき同意を求めることについて	同意
議案第8号	専決処分（小平・村山・大和衛生組合職員給与に関する条例の一部を改正する条例）の承認を求めることについて	承認
議案第9号	平成28年度小平・村山・大和衛生組合一般会計補正予算（第1号）	原案可決
議案第10号	行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備等に関する条例	原案可決
議案第11号	小平・村山・大和衛生組合行政不服審査会条例	原案可決
議案第12号	小平・村山・大和衛生組合非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第13号	地方公務員法及び地方独立行政法人法の一部を改正する法律等の施行に伴う関係条例の整理に関する条例	原案可決

### ○特別職の紹介

当組合の平成28年6月1日現在の特別職は、次のとおりです。

	<敬称略>		
管理者	小林 正 則（小平市長）		
副管理者	尾崎 保 夫（東大和市長）	藤野 勝（武蔵村山市長）	
助役	教山 裕 一 郎（小平市副市長）		
監査委員	舛 川 博 昭 （代表監査委員・議員を有する者）	二ツツ 寺 俊 行 （議員を有する者）	須 藤 博 （議員選出）
議会議員	<敬称略>		
	小平市議会選出	東大和市議会選出	武蔵村山市議会選出
	佐藤 充	尾崎 利 一	内野 直 樹
	竹 井 ようこ	関 田 賢【議長】	遠 藤 政 雄
	平 野 ひろみ	中 野 志乃夫	須 藤 博
	幸 田 昌 之	中 岡 建 二	比留岡 朝 幸【副議長】

## ダイオキシン類の測定結果

### 環境大気

衛生組合では、立川市清掃工場と連携して、清掃工場周辺の大気中のダイオキシン類濃度の測定を、夏季と冬季の年2回実施しています。平成27年度冬季分は、平成28年2月5日から2月12日の間、連続で試料を採取しました。

（単位：pg-TEQ/m<sup>3</sup>）

測定地点	大気環境基準	測定結果	
		平成27年度(冬季分)	(参考)平成26年度(冬季分)
衛生組合測定	0.6以下	0.016	0.022
		0.015	0.020
		0.020	0.020
		0.014	0.013
		0.013	0.011
立川市清掃工場測定	0.6以下	0.011	0.012
		0.015	0.014

(注) 大気環境基準は、ダイオキシン類対策特別措置法に基づく、大気の汚染に係る環境基準です。

## 焼却灰等の放射性物質濃度及び空間放射線量の測定結果

衛生組合では、「主灰、飛灰、排ガス」の放射性物質濃度と敷地境界「東西南北4ヵ所及び東側樹林」における空間放射線量の測定を定期的に実施しています。

測定結果は、ホームページでもご覧になれます。

### ■放射性物質濃度測定結果

採取日	（単位 主灰：飛灰：Bq/Kg、排ガス：Bq/m <sup>3</sup> ）		
	主灰 <sup>※1</sup>	飛灰 <sup>※2</sup>	排ガス
平成28年 3月15日	16	??	不検出(採取日3月15日)
平成28年 4月15日	19	139	不検出(採取日4月15日)
平成28年 5月17日	35	222	不検出(採取日5月17日)
平成28年 6月15日	12	148	不検出(採取日6月15日)
平成28年 7月14日	20	117	不検出(採取日7月14日)
平成28年 8月17日	24	168	不検出(採取日8月17日)

### ■空間放射線量 測定結果（地上高さ1m、5回測定の平均値）

測定日	（単位 μSv/h）				衛生組合東側樹林（バックグラウンド）
	東	西	南	北	
平成28年 3月15日	0.059	0.052	0.042	0.056	0.032
平成28年 4月15日	0.058	0.071	0.042	0.057	0.045
平成28年 5月17日	0.069	0.068	0.050	0.061	0.033
平成28年 6月15日	0.065	0.063	0.049	0.051	0.036
平成28年 7月14日	0.061	0.070	0.052	0.055	0.035
平成28年 8月17日	0.058	0.062	0.055	0.058	0.030

※1 主灰は、焼却炉の灰出設備から排出される灰

※2 飛灰は、焼却炉の集じん器（バグフィルター）で捕集された灰

※3 主灰・飛灰の数値は、「放射性セシウム134」「放射性セシウム137」の合計値（図が示す埋立処分を可能とする放射性物質の暫定基準値は8,000Bq/Kg以下）

※4 排ガスは、「放射性セシウム134」「放射性セシウム137」のいずれも不検出

